

のら猫クロッチと目があつて

ご縁ができたその日から そばに寄り添い 共に歩んで 同行二人

よしざわ

ひろひさ

吉澤広寿

株式会社ラッキーワイド
代表取締役/彫刻家



©1997,2016 NURUE

世界的造形作家集団ラッキーワイドを率いる吉澤さんと、オイラ、クロッチとの出会いは東

日本大震災が起きた2011年にさかのぼる。それまでは紙面の中でうごめいていたイラストのオイラが、雑誌「孫の力」の連載企画を機に、吉澤さんのところで、リアルな体を創っていた。ただ、新たな命を吹き込まれて3次元の世界に飛び出した。これまでに、ラッキーワイドで作成していただいたオイラのフィギュア（立体）は、すでに5体にもなるんだ。そして、吉澤さんは今年11月、企画展「ラッキーワイド×のら猫クロッチ展」（六本木のストライプハウスギャラリー）の開催を決定した。

十数人の造形作家による
大プロジェクト

「わたしの一生の宝物ができた！」、展示会を見に来た人たちが、こう言ってくれる作品を作る義務が、わたしたちにはあるんです！」

「その『一生の宝物』を、まわりの人たち、これからつながっていく全ての人たちに渡し続けていきたいのです」と語る吉澤さん。今回の企画展は、ラッキーワイドの十数人も造形作家たちが、オイラの作品造りにかわるという大プロジェクトだ。そんな中、今、オイラの存在が作家たちそれぞれの中で、一人歩きをはじめているらしい。

「これはね、クロッチの作品を造るひとりひとりの社員の中で、クロッチの歴史を創っているということなんです。この先どのように展開していくかはわからない。でも、だからこそ思いもかけないような夢ができてくる。それが最高なんです。」と吉澤さんは力をこめる。「本当の意味で歩き始めたいから。吉澤さんは「ラッキーワイド×のら猫クロッチ展」を開催するという。

人に夢を与える
仕事への誇り

「人に夢を与える仕事をしている」という誇りを、スタッフみんなが持っている。だからこ

生死の境をさまよった
体験への感謝

これまでの人生、吉澤さんは数えきれなくらい「のら体験」をし、修羅場をくぐり抜けてき

クロッチ「おいら、3次元になっちゃった！」
吉澤社長「クロッチ、いっしょに歴史を創ろうな！」



のら猫クロッチ第1号作品「家もなく 身寄りもないが 明日がある」のホワイトボディ原型（写真左）と吉澤広寿さん（写真右）。ラッキーワイドの第一工場にて

世界の道標を創造し、
歴史を創っている

に出会っている。一年間365日、おちこんだり、めげたりして、終わる日は1日もない。駅伝のたすきのように、必ずベストを尽くして次の日につなげるのである。

自分を動物に例えるなら

ところで、若いころはやたらと元気が良かったという吉澤さん！ 相撲、空手を極め、「クレイジーブルドッグ」というリングネームでプロレス同好会で活動していたというから驚いた。最後に「自分を動物にたとえるなら？」と尋ねたら、意外にも「羊」。との答えが返ってきた。だけど、その後、「あえていうと」と続けた吉澤さんは、「凶暴な羊です」と微笑んだんだ。

さて、幼い頃から猫、犬、ウサギ、鶏などのたくさんの動物たちに囲まれて育った吉澤さん、かわいがっていた猫が亡くなった時、中学3年生から高校1年生にかけて、その猫の木彫を作りあげた。吉澤さんと彫刻との出会いだ。そして、オイラ、のら猫クロッチ。猫にはとことん縁があるらしい。自らも彫刻家である吉澤さんは「わたしの最大の武器は『ものごと』を創造している会社の事業主であることだ」と語る。

「わたしたちは今まさに世界の道標を創造し、歴史を創っている」。吉澤さんの仕事への姿勢と人生観は、ラッキーワイドの若いスタッフたちにも確実に受け継がれているようだ。

「わたしたちの仕事を通して、立場も状況も違う全ての人たち

■吉澤広寿（よしざわひろひさ）

日本とフランスの代表的彫刻家に師事し、その後、株式会社ラッキーワイドを設立。完成度と芸術性の高い仕事で、世界中から依頼が殺到している。